

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3122183号
(U3122183)

(45) 発行日 平成18年6月8日(2006.6.8)

(24) 登録日 平成18年5月17日(2006.5.17)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 1 G 1/00 (2006.01)

A 4 1 G 1/00 M

B 4 4 C 5/08 (2006.01)

B 4 4 C 5/08 A

F 2 1 S 2/00 (2006.01)

F 2 1 P 1/02 A

F 2 1 Y 101/02 (2006.01)

F 2 1 S 1/00 G

F 2 1 Y 101:02

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2005-10430 (U2005-10430)

(22) 出願日 平成17年11月11日(2005.11.11)

(73) 実用新案権者 503403641

滝澤 愛

千葉県市川市南大野1丁目43番24号

(72) 考案者 滝澤 愛

千葉県市川市南大野1丁目43番地24号

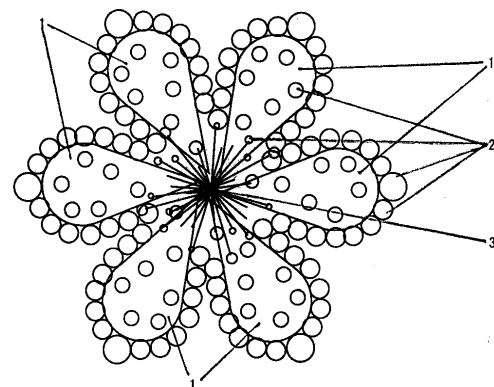
(54) 【考案の名称】 発光繊維織物（光ファイバー織物など）で作られた造花

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】造花の花、花びら等の材料に発光繊維織物（光ファイバー織物など）を用い、暗い場所でも見て取れる造花を提供する。

【解決手段】造花の花、花びら等の材料に発光繊維織物（光ファイバー織物など）を用い、その先に電球や発光ダイオードを繋げ、花・花びら自体を光らせる事により暗闇でも見える造花となる。また、その上にスパンコールやラインストーン、ガラス・クリスタル・プラスチック等の材料からなるビーズ、同様の材料からなる装飾品を施す事により、光をより反射・拡散させ、暗闇でも更に目立つものとなり、一層問題点を解決する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

造花の花・花びら部に発光繊維織物（光ファイバー織物など）を用いる。

【請求項 2】

発光繊維織物（光ファイバー織物など）にスパンコールやラインストーン、ガラス・クリスタル・プラスチック等の材料からなるビーズ、ガラス・クリスタル・プラスチック等の材料からなる装飾品を施す。

【請求項 3】

花芯部に 光ファイバーを用いる。

【請求項 4】

発光繊維織物（光ファイバー織物など）や光ファイバーの端にガラス・クリスタル・プラスチック等の素材を付ける。

【請求項 5】

発光繊維織物（光ファイバー織物など）で作られた花びらの形を保つ為に 花びらに針金等で芯を入れる。

【請求項 6】

発光繊維織物（光ファイバー織物など）や発光繊維（光ファイバー繊維など）を用いて作られた造花を使い、ブーケやコサージュなどといった装飾品にする。

【請求項 7】

発光繊維織物（光ファイバー織物など）や発行繊維（光ファイバー繊維など）の先に電球や発光ダイオードを繋げ、花、花びら自体を光らせる。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本案は 花・花びらに発光繊維織物（光ファイバー織物など）を用いた造花に関するものである。

【背景技術】

【0002】

造花の花や花びらの材料は光る素材ではなく、暗い場所では見えなかった。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

造花の花や花びらの材料に発光繊維織物（光ファイバー織物など）を用いる事により、造花そのものが輝きを放つ。この事により暗い場所でも見て取れる造花となり前述の欠点を解決しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本考案は、造花の花、花びら等の材料に発光繊維織物（光ファイバー織物など）を用い、その先に電球や発光ダイオードを繋げ、花・花びら自体を光らせる事により暗闇でも見える造花となり、問題点を解決している。また、その上にスパンコールやラインストーン、ガラス・クリスタル・プラスチック等の材料からなるビーズ、同様の材料からなる装飾品を施す事により、光をより反射・拡散させ、更に暗闇でも目立つものとなり、一層問題点を解決する。

【考案の効果】

【0005】

上述のように本考案の発光繊維織物（光ファイバー織物など）で作られた造花は、明るい場所では勿論、暗い場所でも造花自体が光り輝き目で見えるので、明るさや場所を選ばず、造花としてだけでなく、コサージュ、ブーケと言った飾りとしても広く使用する事ができる。

【考案を実施する為の最良の形態】

10

20

30

40

50

【0006】

造花の花・花びらや花芯などに発光繊維織物（光ファイバー織物など）や発光繊維（光ファイバー繊維など）を用いる。そして端に光源（電球や発光ダイオードなど）を繋げ、花そのものが光るようにする。また、光をより際立たせる為に、発光繊維織物（光ファイバー織物など）や発光繊維（光ファイバー繊維など）に、スパンコールやラインストーン、ガラス・クリスタル・プラスチック等の材料からなるビーズ、同様の材料からなる装飾品を施す。

【実施例】

【0007】

以下、添付図面（写真）に従って一実施例を説明する。1は花びらで、光ファイバー織物で作られている。2は光を光ファイバー織物の上に施したビーズやラインストーンである。3は花芯部に使った光ファイバー織物で、その先端にもクリスタルの飾りを付けている。4は光源として取り付けた発光ダイオードである。 10

【産業上の利用可能性】

【0008】

造花としてだけでなく、コサージュやブーケ、その他装飾品として利用可能性がある。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本考案の発光繊維織物（光ファイバー織物）で作られた造花の実施例を示す正面図である。 20

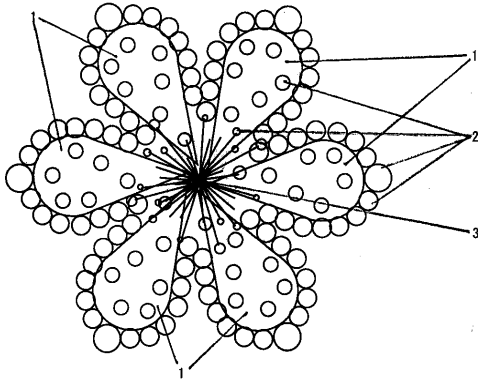
【図2】本考案の発光繊維織物（光ファイバー織物）で作られた造花の実施例を示す側面図である。

【符号の説明】

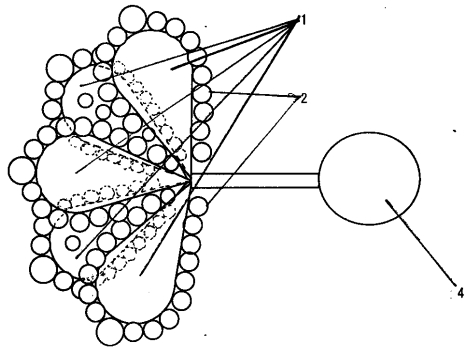
【0010】

- 1 花びら（発光繊維織物で作られたもの）
- 2 ビーズやラインストーン
- 3 光ファイバー
- 4 光源（発光ダイオードや電球）

【図 1】



【図 2】



【手続補正書】

【提出日】平成18年2月7日(2006.2.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

造花の花・花びら・花芯部分に光ファイバー織物（発光繊維織物）を用い、花・花びら・花芯自体を光らせた事の特徴とする造花。